



# 平成24年1月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社 ACCESS

平成23年11月30日

- 本資料に含まれる業績目標等の将来数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき弊社グループで判断したものです
- 将来数値には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの将来数値と異なる場合がありますので、この将来数値に全面的に依拠して、投資等の判断を行なうことは差し控えてください

●ACCESS、ACCESSロゴ、NetFrontは、日本国、米国、およびその他の国における株式会社ACCESSの商標または登録商標です。●IP Infusion、IP Infusionロゴ、ZebOSは、IP Infusion Inc.の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。●AndroidはGoogle Inc.の商標または登録商標です。●その他、文中に記載されている商標、会社名、およびロゴマークは、それぞれ所有する会社に帰属します。

- I. 平成24年1月期 通期業績見込み
- II. 平成24年1月期 第3四半期決算概況
- III. 会社再生へ向けて
  - 1. はじめに
  - 2. 再生委員会の設置
  - 3. 事業運営の基本方針
  - 4. 弊社の強み
  - 5. 弊社の強みを活かした事業展開
  - 6. 研究開発活動の方針

## *Appendix*

# I. 平成24年1月期 通期業績見込み

# 平成24年1月期 通期連結業績予想の修正 ①

(平成23年10月28日付開示)



## ○ 通期連結業績予想値 (平成23年2月1日～平成24年1月31日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり当期純利益 (円)
最新予想 (A) (平成23年10月28日付)	13,700	▲950	▲950	▲2,250	▲5,739.50
従来予想 (B) (平成23年4月12日付)	17,000	1,600	1,600	250	637.88
増減額 (A-B)	▲3,300	▲2,550	▲2,550	▲2,500	—
増減率 (%)	▲19.4	—	—	—	—

## ○ 業績修正の理由

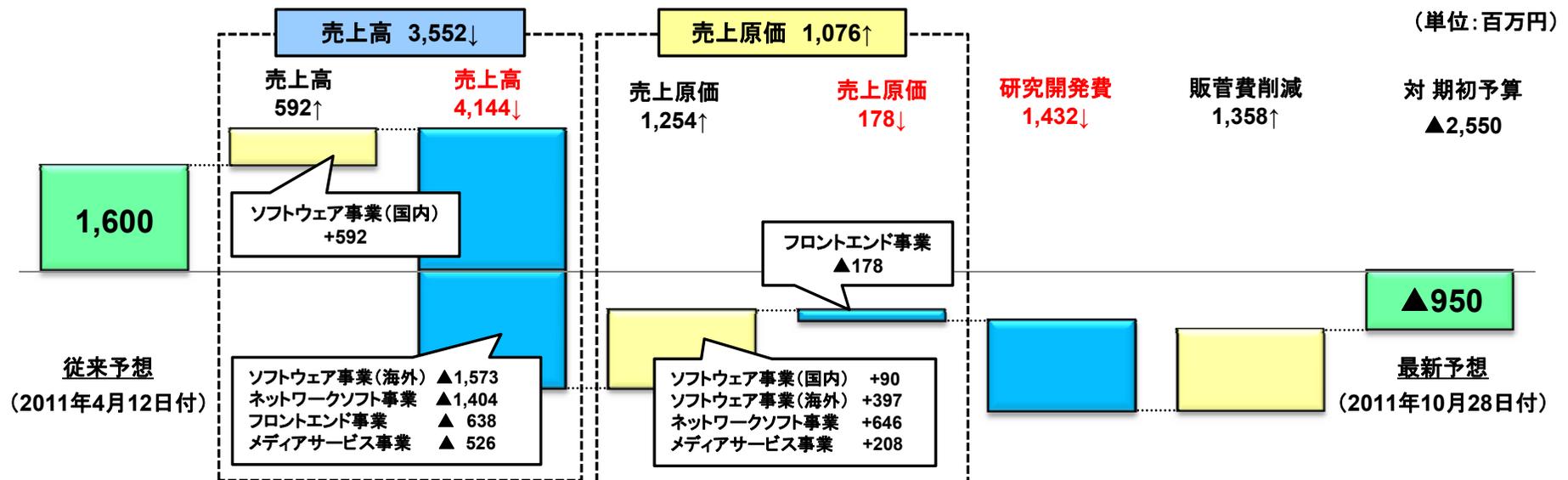
- スマートフォンの世界的な市場浸透が急速に進む中、フィーチャーフォン向けソフトウェアのロイヤリティー収入の落ち込みが当初の想定以上に大きいこと
- 従来よりフィーチャーフォン向けビジネス中心の収益構造からの転換を図っておりましたが、事業シフトの具体的成果による業績寄与が遅れていること
- 全社での包括的なコスト削減は継続しているものの、売上高の減少を補えなかったこと

# 平成24年1月期 通期連結業績予想の修正 ②

(平成23年10月28日付開示)



## ○ 通期連結業績予想値 営業利益比較



## ○ 従来予算からの主な修正内容

- ① ソフトウェア事業 (国内) : フィーチャーフォン向けソフトウェアのロイヤリティー収入の大幅な落ち込み  
一方、特許権のライセンス収入は従来予想より増加し増収要因
- ② ソフトウェア事業 (海外) : フィーチャーフォン向けソフトウェアのロイヤリティー収入の大幅な落ち込み
- ③ ネットワークソフト事業 : 次世代ネットワーク技術(SDN)の市場立ち上がりが想定より遅れ、売上が来期へ
- ④ フロントエンド事業 : 従来予想で見込んでいた複数案件を失注
- ⑤ メディアサービス事業 : 東日本大震災の発生以降は広告収入が大幅に減少し業績低迷  
➡ 事業体制の見直しを検討

## II. 平成24年1月期 第3四半期決算概況

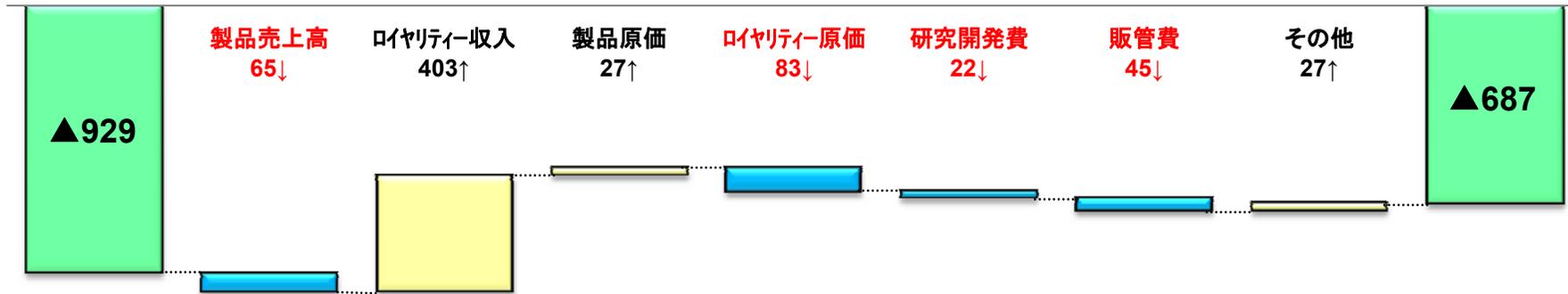
# 連結・経常利益比較（第3四半期累計）



## 修正予算比較

(単位:百万円)

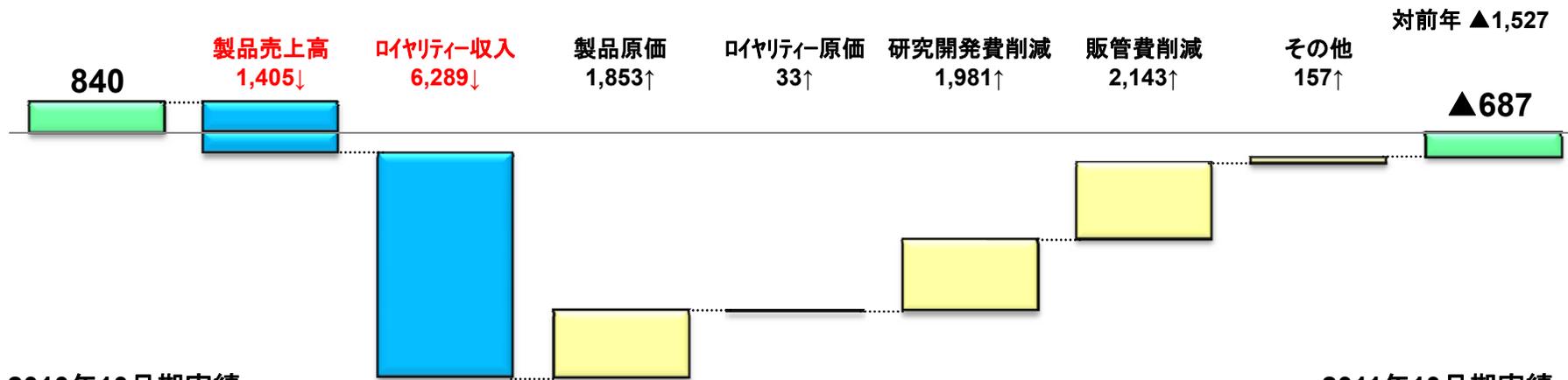
対予算 242



2011年10月期予算

2011年10月期実績

## 前年比較



2010年10月期実績

2011年10月期実績

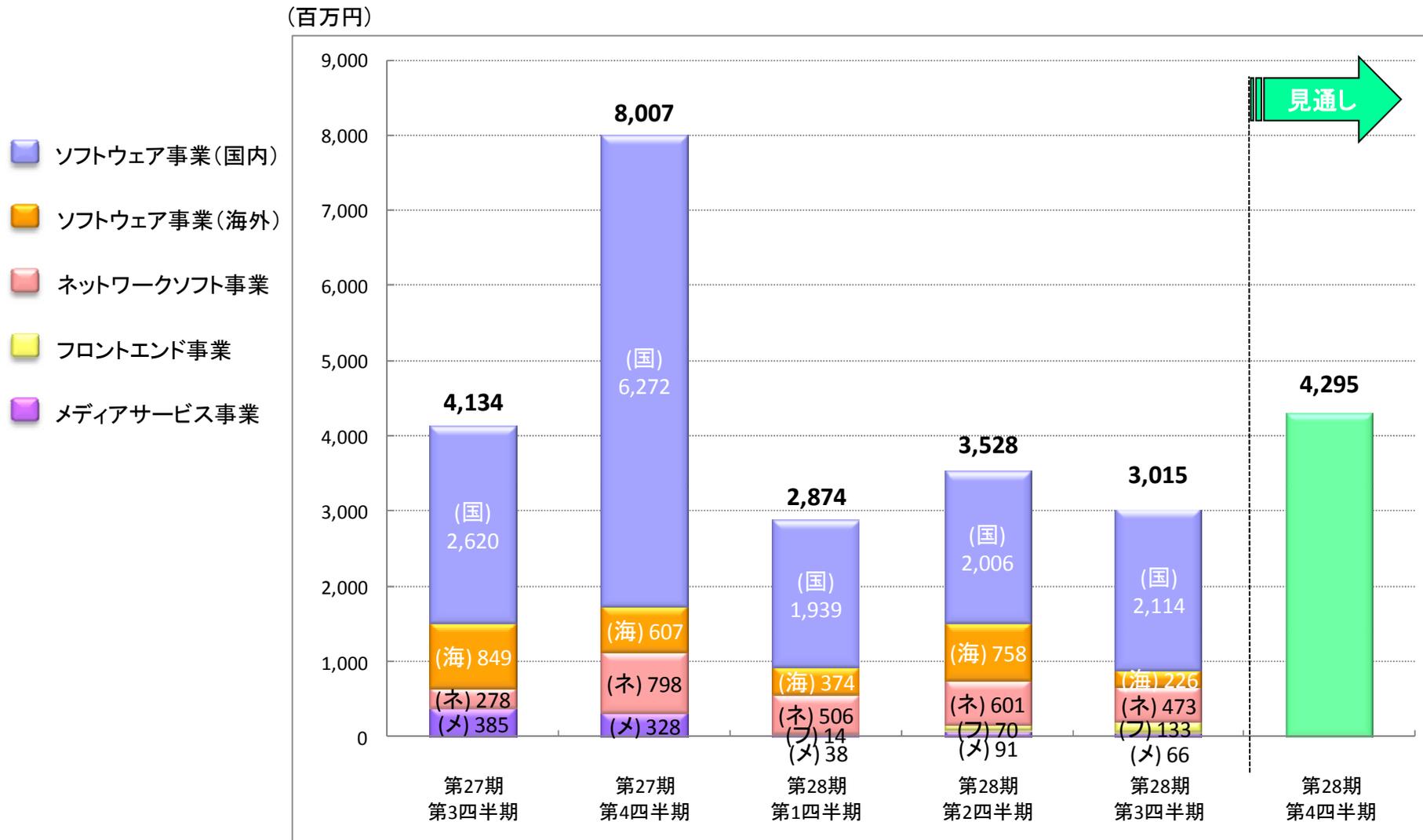
# 決算ハイライト（第3四半期 予実比較/前年比較）



（単位:百万円、%）

連結	9ヶ月通期 (当期) ①	修正予算 ②	予算差異 ①-②	9ヶ月通期 (前年同期) ③	前年差異 ①-③
売上高	9,418	9,080	337	17,112	▲ 7,694
製品	3,948	4,013	▲ 65	5,353	▲ 1,405
ロイヤリティー	5,469	5,066	403	11,759	▲ 6,289
売上総利益 (粗利率)	6,049 64.2%	5,768 63.5%	281 0.7%	11,857 69.3%	▲ 5,807 -5.1%
製品 (粗利率)	973 24.7%	1,011 25.2%	▲ 38 -0.6%	524 9.8%	448 14.8%
ロイヤリティー (粗利率)	5,076 92.8%	4,757 93.9%	319 -1.1%	11,332 96.4%	▲ 6,256 -3.6%
販管費	6,663	6,595	68	10,788	▲ 4,125
研究開発費	2,472	2,449	22	4,454	▲ 1,981
それ以外	4,191	4,145	45	6,334	▲ 2,143
営業利益	▲ 614	▲ 826	212	1,068	▲ 1,682
経常利益	▲ 687	▲ 929	242	840	▲ 1,527
特別損益	▲ 769	▲ 687	▲ 82	▲ 1,296	526
当期純利益	▲ 1,915	▲ 1,885	▲ 29	▲ 1,239	▲ 675

# 四半期毎のセグメント別売上高の推移（連結）

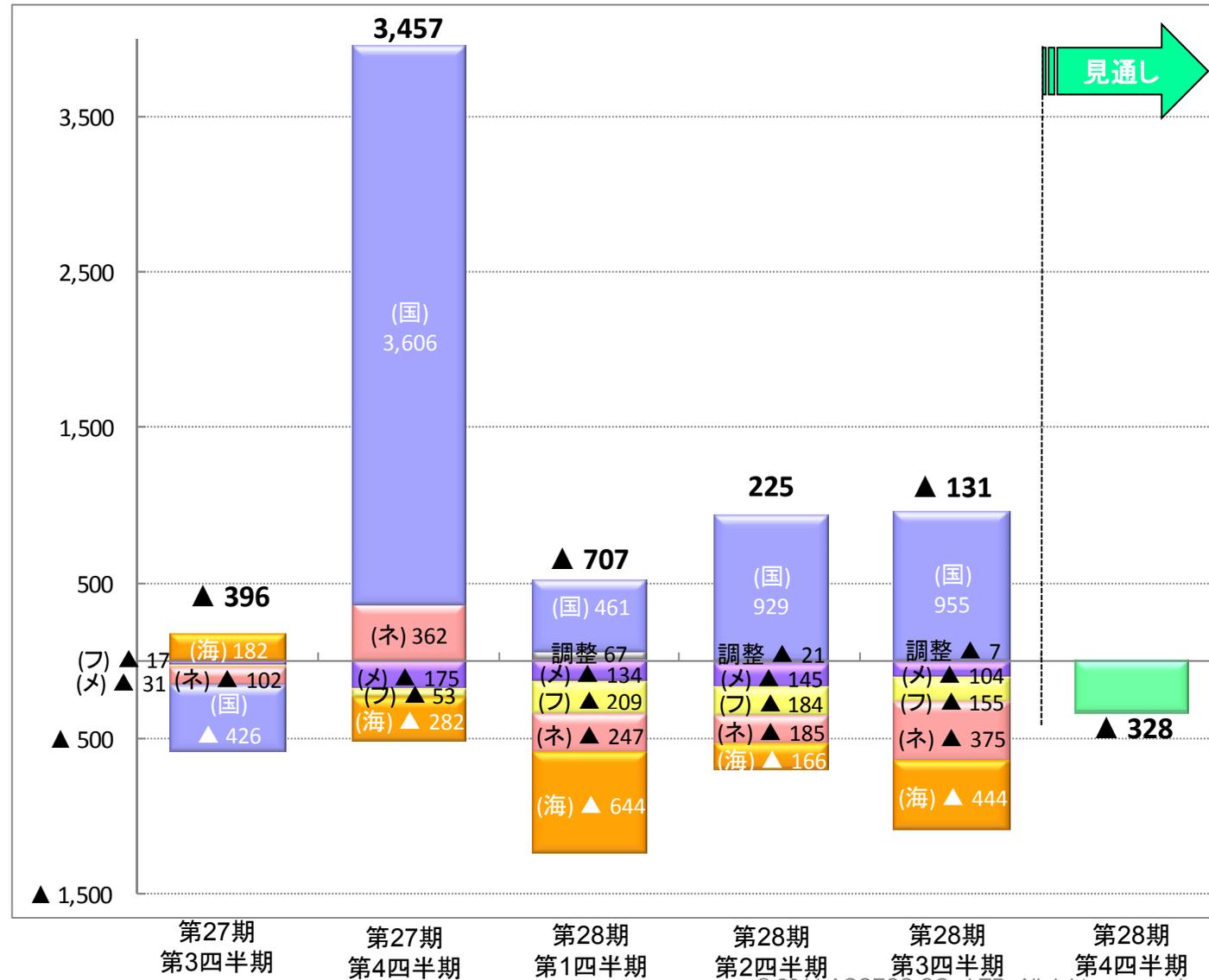


# 四半期毎のセグメント別営業利益の推移（連結）



(百万円)

- ソフトウェア事業(国内)
- ソフトウェア事業(海外)
- ネットワークソフト事業
- フロントエンド事業
- メディアサービス事業
- 調整額



# 特別利益・特別損失の明細（第3四半期累計）



(単位:百万円)

	科目名	ACCESS (本社)	子会社	修正	連結合計
特別利益	貸倒引当金戻入額(ASE、他)	64	36	▲ 64	37
	前期損益修正益	167	80	-	247
	その他	0	58	▲ 50	8
	合計	232	175	▲ 114	293
特別損失	投資有価証券評価損	400	-	▲ 245	155
	特別退職金(HQ、ASA、IPI、ASC)	659	201	-	861
	その他	8	38	0	46
	合計	1,068	239	▲ 245	1,063

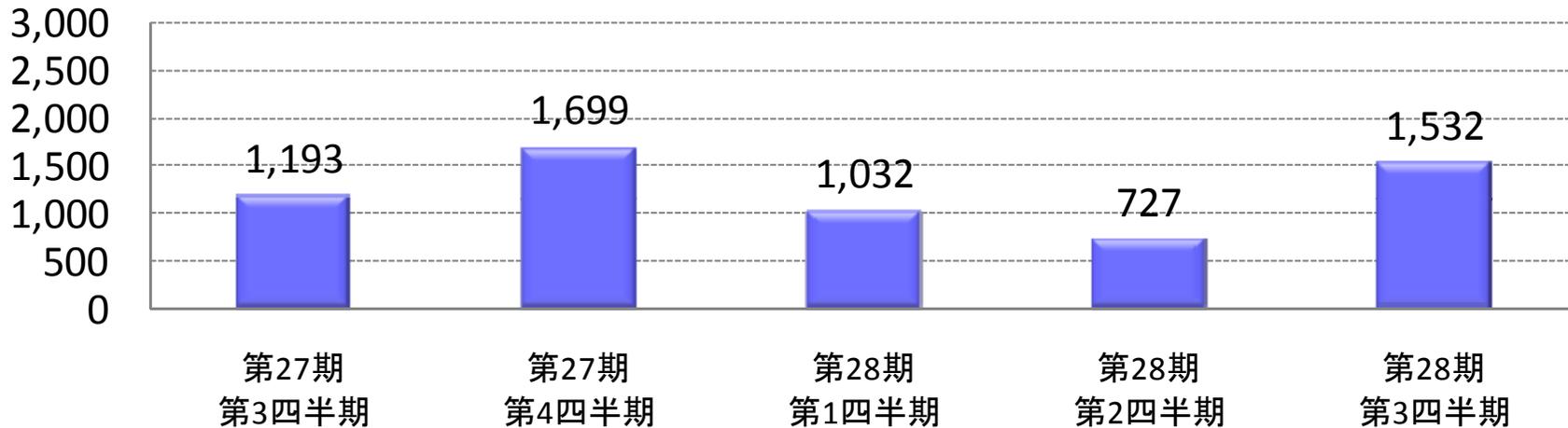
HQ : 659 百万円 (207名)  
 ASA : 23 百万円  
 IPI : 9 百万円  
 ASC : 173 百万円

# 受託開発(製品)の受注状況(連結)



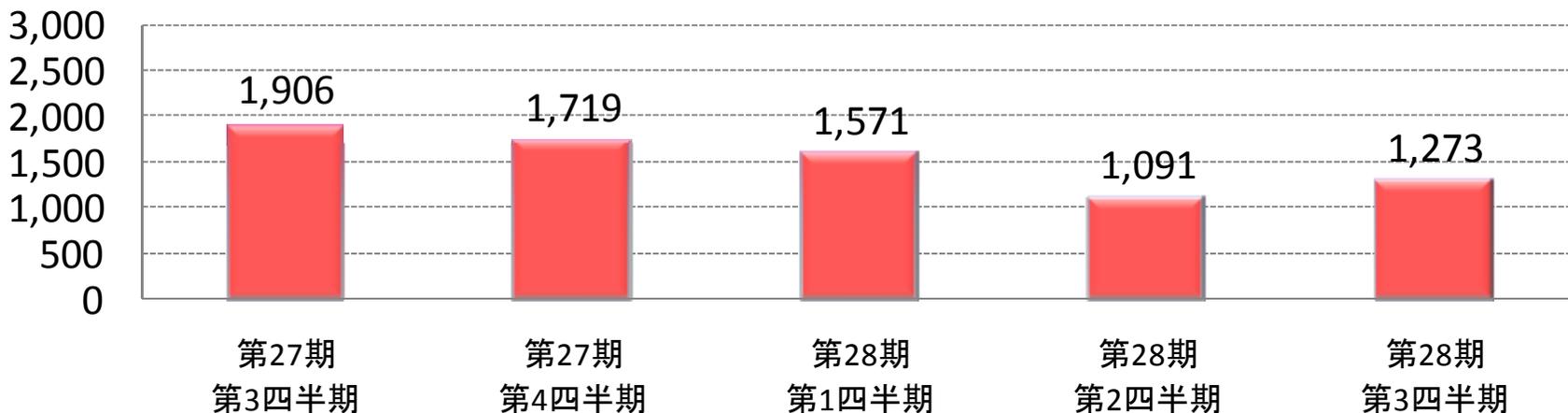
## 受注高

(百万円)

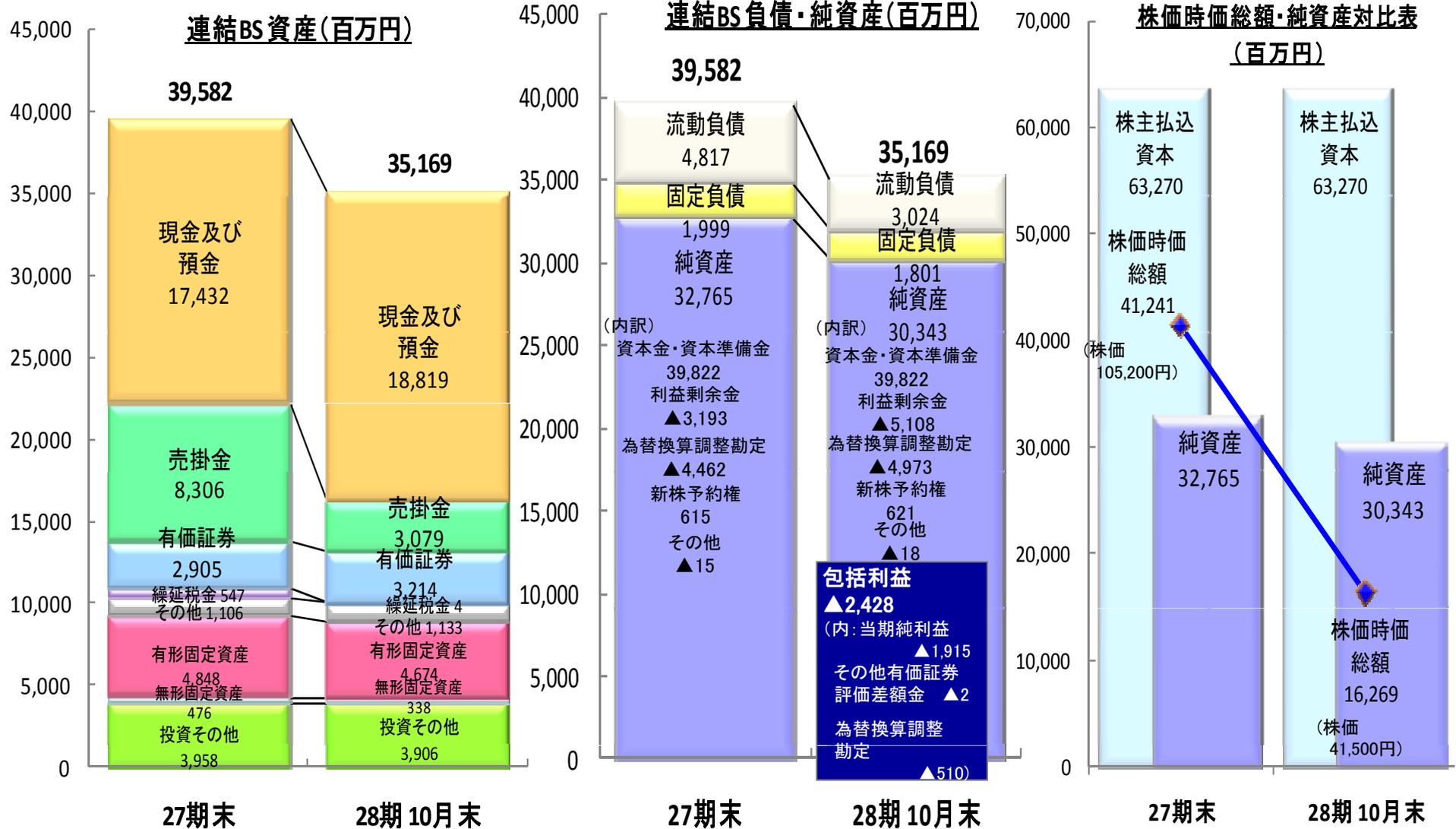


## 受注残高

(百万円)



# 貸借対照表 (要約)



# 連結キャッシュ・フローの状況（要約）



(百万円)	第28期 9ヶ月通期	第27期 9ヶ月通期	第27期 通期
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,562	2,511	2,681
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲161	346	2
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲216	▲340	▲404
IV. 現金及び現金同等物増加/減少	1,877	1,972	1,559
V. 現金及び現金同等物期首残高	18,616	17,057	17,057
VI. 現金及び現金同等物期末残高	20,494	19,029	18,616

税金等調整前当期純損失 : ▲1,457 百万円  
 売上債権の減少 : 5,214 百万円  
 特別退職金等支払額 : ▲1,284 百万円

税金等調整前当期純損失 : ▲456 百万円  
 売上債権の減少 : 3,688 百万円  
 減価償却・のれん償却 : 957 百万円  
 たな卸資産の減少 : 947 百万円  
 未払費用の減少 : ▲676 百万円  
 法人税等支払額 : ▲2,046 百万円

税金等調整前当期純利益 : 1,805 百万円  
 減価償却・のれん償却 : 1,288 百万円  
 売上債権の増加 : ▲178 百万円  
 たな卸資産の減少 : 1,146 百万円  
 法人税等支払額 : ▲2,104 百万円

定期預金の預入による支出 : ▲2,216 百万円  
 定期預金の払戻による収入 : 1,137 百万円  
 投資有価証券の取得による支出 : ▲3,226 百万円  
 投資有価証券の売却による収入 : 4,041 百万円

保証金の返還による収入 : 630 百万円  
 株式取得による支出 : ▲216 百万円

# 人員の推移（連結）



(単位：人)		2010/10末	2011/1末	2011/4末	2011/7末	2011/10末
	日本	441	405	343	187	186
<b>ソフトウェア事業(国内)</b>		<b>441</b>	<b>405</b>	<b>343</b>	<b>187</b>	<b>186</b>
	日本	-	-	10	11	11
	アジア(日本以外)	445	381	344	318	229
	北米	48	38	33	31	30
	ヨーロッパ	94	44	34	34	35
<b>ソフトウェア事業(海外)</b>		<b>587</b>	<b>463</b>	<b>421</b>	<b>394</b>	<b>305</b>
	日本	9	9	11	13	14
	アジア(日本以外)	-	15	43	90	122
	北米	53	53	58	59	65
	ヨーロッパ	-	4	5	4	5
<b>ネットワークソフト事業</b>		<b>62</b>	<b>81</b>	<b>117</b>	<b>166</b>	<b>206</b>
	日本	5	22	56	47	63
<b>フロントエンド事業</b>		<b>5</b>	<b>22</b>	<b>56</b>	<b>47</b>	<b>63</b>
	日本	43	33	30	24	23
<b>メディアサービス事業</b>		<b>43</b>	<b>33</b>	<b>30</b>	<b>24</b>	<b>23</b>
	日本	113	112	129	173	63
<b>本社管理部門</b>		<b>113</b>	<b>112</b>	<b>129</b>	<b>173</b>	<b>63</b>
<b>合計</b>		<b>1,251</b>	<b>1,116</b>	<b>1,096</b>	<b>991</b>	<b>846</b>

### III. 会社再生へ向けて

# 1. はじめに



**我々は、**

**「強い営業力」「強い製品力」「強い組織」を再構築し、**

**会社再生に全力を尽くします。**

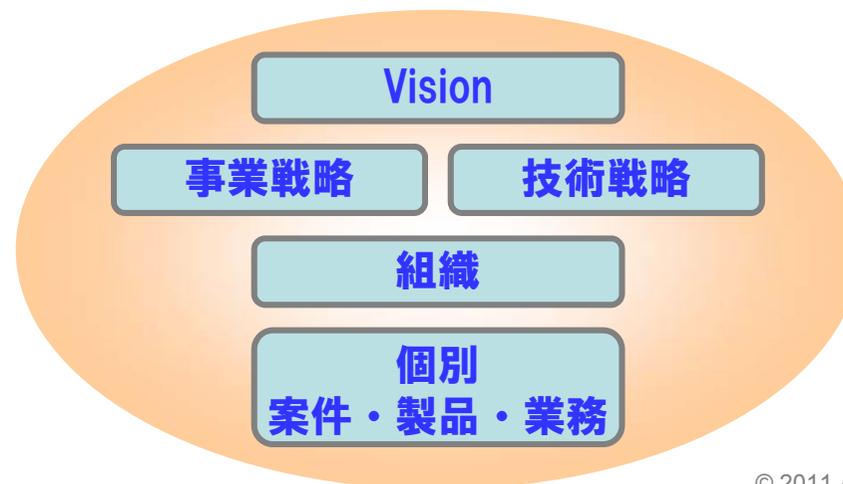
## 2. 再生委員会の設置

### ○ 目的

- 今後の事業を見据えたコア人材を構成員とした特別委員会を設置済み
- 業績回復へ向けた具体的施策を短期間のうちに議論し、即時実行に移す  
⇒ 事業転換・組織再編を今期中に完了し、来期以降の黒字化を達成する

### ○ 検討事項

- 会社経営上・業務推進上のあらゆる課題をゼロベースで徹底的に見直す
- 投資対効果・費用対効果を検証し、選択と集中を徹底



### 3. 事業運営の基本方針

#### 顧客満足の追求

- 製品力・サービス力を見直し、顧客満足第一での営業活動・開発活動を展開

#### 顧客開拓への全社取り組み

- あらゆる社内資産を活用し、『ALL ACCESS』で新規性・付加価値性の高い顧客向け提案を実施

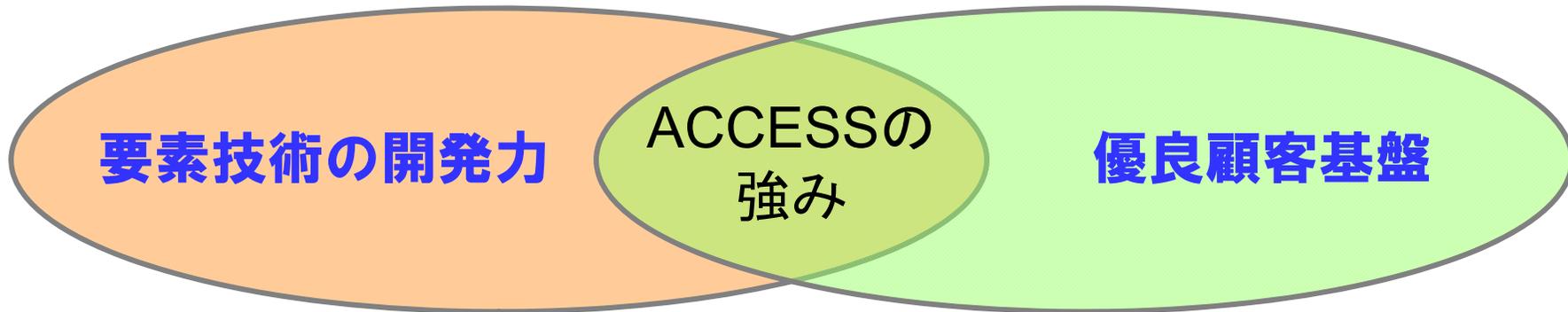
#### 選択と集中

- 全ての製品・プロジェクト・業務について、投資対効果・費用対効果の観点から徹底検証

#### コストの徹底削減

- 徹底した固定費・外注費・経費の削減を実行
- 売上規模に即したコスト削減を実施し、黒字化を達成

## 4. 弊社の強み



### ■ 先進要素技術の開発力 / 開発実績

- ・マルチデバイス対応  
(スマートフォン / タブレット / 様々な情報家電 etc.)
- ・マルチプラットフォーム対応  
(iOS / Android™ etc.)
- ・システム全体の一括提供  
(クライアントソフト側 + バックエンドサーバ側)
- ・ネットワーク機器向けソフトウェア開発  
(ネットワークソフトウェア / クラウドネットワーク向けソリューション)

### ■ 国内外の主要プレーヤーとのリレーション

- ・主要キャリア / インフラ事業者  
⇒ 影響力・資金力のある事業者との協業により、  
様々なビジネス機会獲得を狙う
- ・主要メーカ / ベンダ  
⇒ 既存取引を梃子にしつつ、全社を挙げて  
様々な新規提案を精力的に行う
- ・主要サービス事業者  
⇒ 積極的に協業に取り組み、Win-Winでの事業  
成功を目指す

- 独立系会社として、中立的な立場から  
様々なパートナーとの協業が可能

# 5. 弊社の強みを活かした事業展開

クラウドとマルチデバイス連携向けに様々なソリューションを提供



インフラ事業者様

- ・有線通信
- ・無線通信
- ・放送
- ・エネルギー



メーカー様

- ・デジタル機器
- ・自動車
- ・家電
- ・ゲーム



サービス事業者様

- ・広告
- ・Eコマース
- ・出版
- ・SNS

Smart Grid

エンタープライズ  
向けサービス

M2Mサービス

IPTVサービス

広告配信  
システム提供

電子書籍向け  
サービス

ソフトウェア  
開発力



クラウド向け  
ソリューション



メーター



パソコン



デジカメ



カーナビ



スマートフォン



タブレット



テレビ



電子書籍  
リーダー

ACCESSのマルチデバイスソフトウェア開発力とIP Infusionのクラウド技術向けソフトウェア開発力を  
組み合わせ、様々なサービスを実現するソリューションを国内外の多数の事業者様向けに提供

## 6. 研究開発活動の方針 ①

### - 自社R&D分野をフォーカス

#### WebKitベースBrowser

- 研究開発分野  
WebKitをベースとした  
HTML5対応Browser開発
- 当社製品

**NetFront Browser NX**

#### デジタル家電向けソリューション

- 研究開発分野  
デジタル家電連携、デジタル  
TV向けソフトウェア開発
- 当社製品

**NetFront Living Connect**  
**NetFront Browser DTV Profile**

#### 電子書籍配信向けソリューション

- 研究開発分野  
EPUB3.0準拠の電子書籍  
市場向けプラットフォーム開発
- 当社製品

ACCESS™ Digital Publishing Ecosystem

#### 広告配信システム

- 研究開発分野  
モバイル広告に特化した広告  
配信プラットフォーム開発
- 当社製品

**NetAd**

#### Software Defined Networks

- 研究開発分野  
次世代クラウドネットワークを  
支えるソフトウェア仮想化技術
- 当社製品

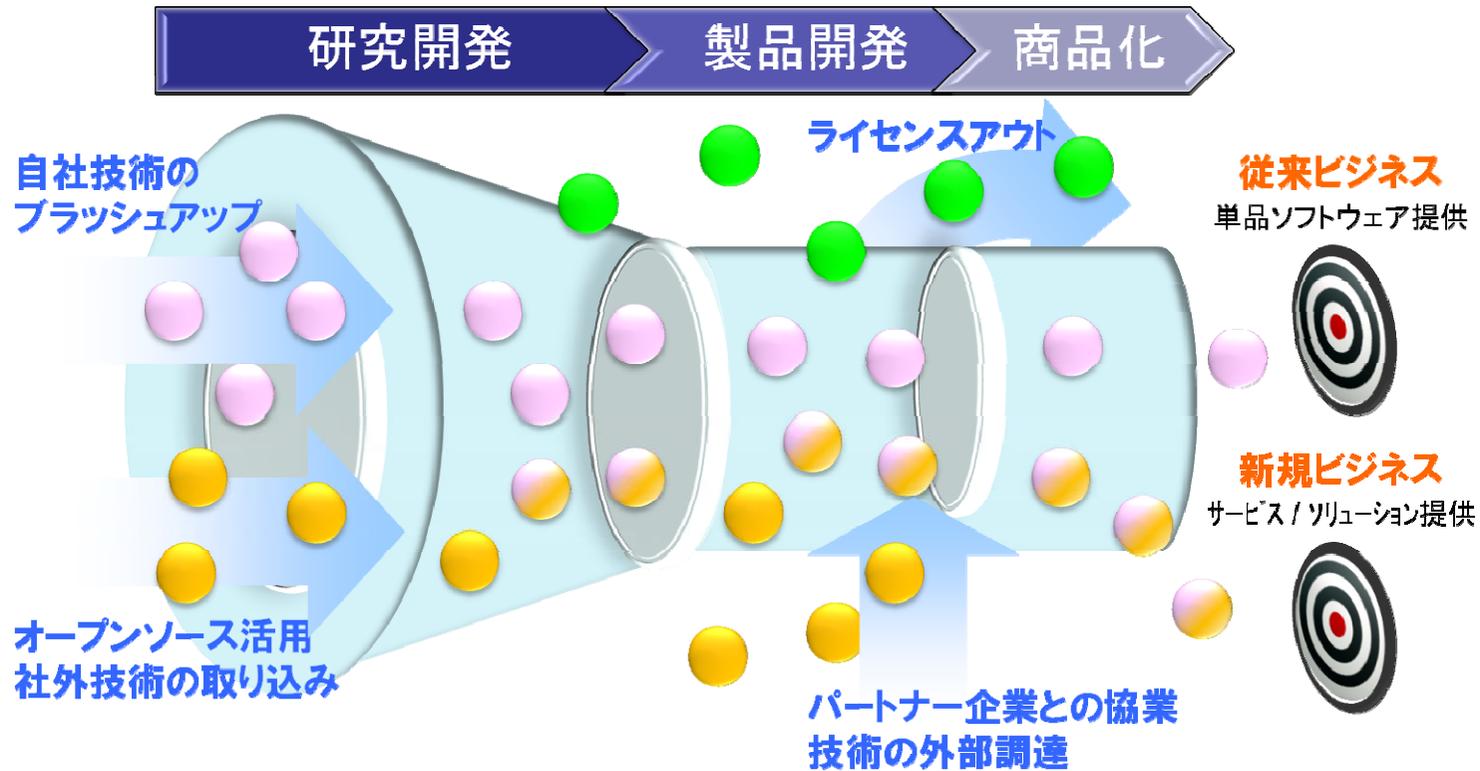
ORCA-WB

自社R&D分野の「選択と集中」を徹底  
自社の強みを磨いていく分野にフォーカス

# 6. 研究開発活動の方針 ②

- 自社技術と外部技術の融合

## 外部技術の積極活用（オープン・イノベーション）



自社R&D分野の「選択と集中」



外部技術の積極的活用

新規事業・新市場を開拓

# *Appendix*

# 平成24年1月期第3四半期 開示一覧 ①



		適時開示	報道発表
第3四半期	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 平成24年1月期 第2四半期累計期間業績予想と実績値の差異に関するお知らせ (8月31日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ACCESSと一休、両社のコンテンツ及びサービスに関し広範囲な協業を開始</li> <li>■ ACCESSの「NetFront® Document Viewer」が、シャープの中国市場向けスマートフォン「SH8188U」に採用</li> </ul>
	9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ACCESS、欧州最大の放送関連機器の展示会「IBC2011」に出展</li> <li>■ ACCESSとOcean Blue Software、家電連携やインターネット対応機能を強化するTV向けソリューションを共同で提供</li> <li>■ ACCESS、Philipsと共同で先駆的なリモートタッチ操作を実現</li> <li>■ ACCESS、Android™スマートフォン向けコミュニケーション・プラットフォーム「NetFront® Communicator」を開発、提供開始</li> <li>■ ACCESS、ウィルコムとの2011年秋冬モデルPHSの3機種に「NetFront® Mobile Client Suite」を提供</li> <li>■ IP Infusion、ネットワーク構築の新機軸となるソフトウェアベースの通信機器向けミドルウェア「ZebOS® 7.9」を発表</li> </ul>

# 平成24年1月期第3四半期 開示一覧 ②



		適時開示	報道発表
第3四半期	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通期業績予想の修正に関するお知らせ</li> <li>■ 代表取締役の異動に関するお知らせ</li> <li>■ 人事異動に関するお知らせ</li> </ul> <p>(上記3件: 10月28日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ACCESS、「スマートフォン&amp;タブレット2011秋」に出展</li> <li>■ ACCESS、ソニーの液晶テレビ&lt;ブラビア&gt;のアプリキャスト向けにリクルートの割引チケット共同購入サイト「ポンパレ」アプリを開発、提供開始</li> <li>■ ACCESS、EPUB 対応の電子書籍ビューワ「NetFront® BookReader v1.0 EPUB Edition」を開発、提供開始</li> <li>■ IMJとACCESS、動画配信サービス「TSUTAYA TV」のAndroid™対応VODストアアプリを協同で開発し提供を開始</li> <li>■ ACCESSとピクセラ、NTTドコモのタブレット新機種「ドコモタブレット ARROWS Tab LTE F-01D」にワンセグソリューションを提供</li> <li>■ ACCESSとベリサイン、Android™OS上で動作する企業向けSSLクライアント認証対応ブラウザと、電子証明書の取得を簡素化するインストールソリューションを開発</li> </ul>
(ご参考) 第4四半期	11月	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ACCESS、Android™ 対応のTV向けBMLブラウザ開発キット「NetFront® Browser DTV Profile BML Edition SDK for Android」を発表</li> <li>■ NTTドコモ向け2011-2012冬春モデルの富士通製スマートフォン5機種すべてにワンセグソリューションを提供</li> <li>■ ACCESS、グローバル市場向けに電子出版事業推進プログラム「Direct to Consumer」を発表</li> <li>■ ACCESSの電子出版トータルソリューション「ACCESS™ Digital Publishing Ecosystem」が、米国のBearport出版社およびScientific出版社に採用</li> <li>■ ACCESSのDLNAソリューション「NetFront® Living Connect」がPrimax社の家電製品に採用</li> </ul>